



□欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	ながふじ学府一休校	BEE	1.4	BEEランク	B+	★★★

2. 重点項目への取組み度				
重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価	
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.5	/5		ふつう
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	4.0	/5		よい
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	4.2	/5		よい
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.9	/5		がんばろう
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例 よい 4 点以上	ふつう 3 点以上	がんばろう 3 点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目		
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。				
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)		得点	3.5	
■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ②トップライトによる自然採光。 ③カーテン及びバルコニーによりグレアを制御。 ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑥敷地外周部には低木と中木により緑化を行う等、景観に配慮した。 ■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑧共用空間上部にトップライトを設け、自然採光・自然通風を積極的に取り入れた。 ⑨LED照明の採用。高効率空調機の導入。 ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪WCには節水型の衛生機器を採用し、排水には井水を利用することで、無駄な水の使用を減らした。 ⑫維持管理に配慮した仕上げ材としている。 ⑬ODP=0の冷媒を使用している。 ■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑭ライフサイクルCO2排出率83% ⑮夏季の卓越風に対する見付面積比を50%以下とした。	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① 外皮性能 Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 昼光利用設備 3.2 3.2.1 ③ 昼光制御 Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 躯体材料の耐用年数 2.2.2 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 2.2.3 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 2.2.4 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 2.2.5 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 2.2.6 ④ 主要設備機器の更新必要間隔 Q-3 1 ⑤ 生物環境の保全と創出 3 3.2 ⑥ 敷地内温熱環境の向上 LR-1 1 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 2 ⑧ 自然エネルギー利用 3 ⑨ 設備システムの高効率化 4 4.1 ⑩ モニタリング 4.2 ⑩ 運用管理体制 LR-2 1 1.1 ⑪ 節水 1.2 1.2.1 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 1.2.2 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 2 2.1 2.1.1 ⑫ 材料使用量の削減 2.1.2 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 2.1.3 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 2.1.4 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 2.1.5 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 2.1.6 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み 3 3.1 ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 3.2 3.2.1 ⑬ 消火剤 3.2.2 ⑬ 断熱材 3.2.3 ⑬ 冷媒			
	"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)		得点	4.0
	■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑯建築基準法に定められた50%増の耐震性を有する。	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 耐震性 2.1.2 ⑯ 免震・制振性能 2.4 2.4.1 ⑰ 空調・換気設備 2.4.2 ⑰ 給排水・衛生設備 2.4.3 ⑰ 電気設備 2.4.4 ⑰ 機械・配管支持方法 2.4.5 ⑰ 通信・情報設備		
		"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)		得点
■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑱バリアフリー法建築物移動円滑化経路基準相当の計画とした。 ■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) ㉑街並みに配慮し、タイル等自然素材を活用した外装とした。	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画 3 3.1 3.1.1 ⑲ 階高のゆとり 3.1.2 ⑲ 空間の形状・自由さ Q-3 3 3.1 ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上			
	"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)		得点	2.9
■室外環境(敷地内)対策 (⑳生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/㉓敷地内温熱環境の向上) ㉓緑地の緑が連続するような外構植栽計画を行った。 ■敷地外環境対策 (⑳温熱環境悪化の改善) ㉓地表面対策面積を45%以上とした。	Q-3 1 ⑳ 生物環境の保全と創出 2 ㉒ まちなみ・景観への配慮 3 3.2 ㉓ 敷地内温熱環境の向上 LR-3 2 2.2 ⑳ 温熱環境悪化の改善			

CASBEE[®]-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ながふじ学府一体校	階数	地上4F
建設地	静岡県磐田市	構造	RC造
用途地域	無指定地域、法第22条区域	平均居住人員	1,220 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,300 時間/年(想定値)
建物用途	学校、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年2月 予定	評価の実施日	2019年3月20日
敷地面積	33,035 m ²	作成者	斉藤政弘
建築面積	7,123 m ²	確認日	
延床面積	16,984 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.4

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B+: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外のオンサイト手法 ④上記+オフサイト手法

46 (kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 3.2

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.7

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.8

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		その他
総合 CASBEE静岡2016年版による評価結果 吹抜けやトップライトを活用し、校舎全体で自然通風、自然採光を積極的に活用できるつくりとし、屋上には教材化としての太陽光発電設備を設け、エコスクールを「見える化」した環境教育の場を目指した。		0
Q1 室内環境 教室は南側に十分な開口を確保し、共用空間上部にトップライトを設け、自然採光・自然通風を積極的に取り入れた、快適性のよい室内環境とした。	Q2 サービス性能 内装材に出来る限り木材を活用することで、柔らかく温かみのある感触を与え、快適性を高める等、豊かな教育環境づくりを行った。	Q3 室外環境 (敷地内) 敷地外周部には低木と中木により緑化を行う等、景観に配慮した。
LR1 エネルギー 自然採光を積極的に取り入れることで、照明エネルギーの削減を図り、環境負荷の低減を行った。	LR2 資源・マテリアル WCには節水型の衛生機器を採用し、排水には井水を利用することで、無駄な水の使用を減らし、省エネを推進した。	LR3 敷地外環境 既存の状況を把握し、周辺への配慮が必要と考えられる為、駐車場施設整備及びグラウンドの砂塵対策等を行った。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照された